

〔概要版〕

飛騨市総合政策指針

～ 人口減少先進地が示す 人口減少時代の処方箋 ～
(令和2～6年度)

(第2期 飛騨市まち・ひと・しごと創生総合戦略)
(飛騨市人口ビジョン)



令和2年3月



趣旨

飛騨市は、既に高齢者の人口が減り始め、全国の人口構成等の推移を先取りしている「人口減少先進地」です。本市では、人口減少を正面から受け止めた上で、今後も人口推計通りに人口が減っていくことを前提とし、あらゆる未知の課題に対して柔軟かつ臨機応変に対応し、その上でどういう豊かなまちづくりができるのかを示す基本的な指針として、飛騨市第2次総合計画の後継となる新たな指針「飛騨市総合政策指針」を策定しました。

位置づけ

飛騨市総合政策指針は、本市の5年後になりたい姿と、そのために進むべき方向を示す基本的な指針であり、未知の課題に挑戦する姿勢を示したものです。

政策重視の市政運営を図るため、飛騨市第2次総合計画の後継となる本指針は、市の最上位計画であるとともに、「第2期飛騨市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「飛騨市人口ビジョン」を兼ねる計画です。

計画期間

本指針の計画期間は、2020年度（令和2年度）から2024年度（令和6年度）の5ヶ年です。

策定にあたっての基本的な考え方

本指針は、政策の大きな柱を示し、具体的な事業は毎年度の予算の枠内で組み立てることを基本としながら、「元気でんきな誇りの持てるふるさと飛騨市づくり」を政策の基盤として策定しています。

施策の具体化とその検証

各施策の組み立てにあたっては、市民との様々な対話を通じて得られる生の声を取り入れながら各事業内容を精査するとともに、各分野の代表市民で構成する市の最上位審議会「飛騨市総合政策審議会」において、政策の検討・検証を行うものとします。

まちの将来像

本市では、次々と未知なる課題が生まれる人口減少時代の中にあって、問題を前向きに捉え、一つ一つの課題に丁寧に向き合い、現場での市民の声や困り感を肌で感じる中で、様々な知恵と工夫で課題を暮らしやすさに転換しながら、市民の結束力やコミュニティの力を高めていきます。

こうした取り組みの積み重ねにより、自分自身が住み慣れた環境の中で、誰もが心豊かに穏やかに過ごすことができるまちをつくることが出来ると考えています。

そして、こうした取り組みの一つ一つを全国にしっかりと発信し、「飛騨市」の認知度を高めることが、「飛騨市に住めば何か楽しいことが起きる」、「何か楽しいことができる」という「気」を市内全域に醸成することに繋がり、本市に住み、そして関わる全ての人々が、毎日の生活を楽しく暮らすことが出来るようになるを信じています。

このような考え方から、

本市が目指す5年後のまちの将来像を「みんなが楽しく心豊かに暮らせるまち」とし、誰一人取り残されず、互いを家族のように支え合えるまちづくりを進めます。

そして、まちの将来像の実現のため「元気でんきな誇りの持てるふるさと飛騨市」の政策方針のもと、人口減少先進地としての全国モデルとなるまちづくりを推進していきます。



将来像実現のための基本姿勢

将来像の実現のため市が市政運営の主体となり、市民のみならず、飛騨市に関わる全ての方、企業・団体、大学などあらゆる方と一緒に今後のまちづくりを進めます。

» 01 対話と協働

①対話によるまちづくり

職員と市民との「対話」を徹底し、市民の声と思いを現場で直接聞き、市民の困り感に直接対応できる市政を進めます。

②協働によるまちづくり

市民の様々な活動を繋ぎ、市全体が目標を共有し、様々な地域課題について皆で考え、ともに力を合わせて活動する“協働”を進めます。

» 02 交流と連携

①交流によるまちづくり

観光客や飛騨市に思いを寄せていただける全国の関係人口、そして、市民との温かい触れ合いの中で様々な文化や伝統を共有することで、賑わいと新しい価値を創造します。

②連携によるまちづくり

市内はもちろん、飛騨地域や県内、全国の優れた人材や自治体、そして企業や団体、大学との交流を深めることで、互いの強みを生かし弱みを補い合える「共創」による連携型の市政を進めます。

» 03 挑戦と前進

①挑戦を続けるまちづくり

失敗を恐れず改良を重ね積極果敢にチャレンジし続ける姿勢で、これまでにない新たな政策を生みだし、“人口減少先進地”としての人口減少時代の全国モデルをつくります。

②前進し続けるまちづくり

前向きな“気”を市全体で共有し、現実を直視しながらも市民が一丸となって前に進むことができる市政を進めます。



指針の組み立て

【まちの将来像】 みんなが楽しく心豊かに暮らせるまち

① 対話と協働

② 交流と連携

③ 挑戦と前進

将来像実現のための 基本姿勢

元気な 飛騨市づくり ~しごとを守る~

I 誰もが働きやすく、 活躍できる元気なまち

高齢者や女性、障がいのある方や外国人など、全ての方が自分にあった働き方で生き生きと働けるまちを目指します。

- 多様な人材が活躍する産業の支援
- 少人数でも持続可能な産業の支援



II 変革への挑戦を続け、 新しい価値を創造するたくましいまち

人口減少時代のあらゆる場面でも、変革を恐れず柔軟に対応し、地域外需要の獲得に挑戦し続けるまちを目指します。

- 新たな事業・商品・サービスを創造する事業者の応援

- 自ら起業する人の支援と仕事づくり

- 地域資源を活かした産業づくり



III 様々な人や地域との交流から 所得を生み出すまち

あらゆる人や事業者等と交流し、多様な考え方やニーズを広く受け入れ、産業やまちづくりへの活力を生み出すまちを目指します。

- 思い出に残る観光地づくり

- 都市部への訴求力が高い農林畜産業づくり



- 関係人口等との交流によるまちづくり

あんきな 飛騨市づくり ~まちをつくる~

I 誰一人取り残されず 大切にされる思いやりのあるまち

全ての市民がお互いを思いやり、最期まで自分の住み慣れた地で安心して暮らすことができるまちを目指します。

- 必要な医療・介護を受けられる体制づくり

- 最期まで住み慣れた場所で暮らせる仕組みづくり

- 弱い立場の方も一人ひとりありのままの自分を大事にされる環境づくり

- 安心して暮らせる公共サービスづくり

II お互いを家族のように思い、支えあえるまち

全ての市民がお互いを家族のように思い、支え合い助け合って暮らすことのできる、みんなが安心できるまちを目指します。

- みんなで支えあうコミュニティと防災体制づくり

- 楽しく子育てできる環境づくり



III 生涯現役で自分らしく暮らせる健やかなまち

全ての市民が、無理なく自分に合ったペースで健康な心と体づくりに励み、生涯現役で健やかに暮らせるまちを目指します。

- 全世代の健康づくり・体力づくりの支援

- どんな人でも自分のペースで活躍できる環境づくり



誇りの持てる 飛騨市づくり ~ひとを伸ばす~

I 子ども達の生きる力を 地域一体で育む学び豊かなまち

人口減少時代において子ども達に求められる課題解決能力を地域が一体となり育んでいくまちを目指します。

- 未知の課題に立ち向かい自ら解決することのできる子ども達を育むまちづくり



II 一人ひとりの頑張りを応援し 互いに尊敬しあえるまち

年齢・性別・出身等を問わず、自分を伸ばし成長し、どんな人・活動でも、みんなが尊敬しあえる“人”を誇れるまちを目指します。

- 生涯学び自分を磨くことができる環境づくり

- 個性あるまちづくり活動の促進



III 豊かな環境と個性ある 地域資源を大切にする誇り高いまち

個性溢れる地域資源を磨き、自然あふれる素晴らしい環境を全国・世界に自慢できる誇り高いまちを目指します。

- 地域・文化資源を大切にし自慢できる仕組みづくり

- 豊かな自然と水を守り後世に引き継ぐ仕組みづくり



行財政改革

① 財政運営の方針

② 事務事業の見直しと 職員定数の管理

③ 公共施設の管理運営

④ 内部統制制度の導入

政策の方向性 1

元気な
飛騨市づくり
～しごとを守る～

人口減少の影響を軽減するため、地域外から所得を稼ぐ製造業、農林畜産業、観光を振興しようとする取り組みです。商品（地域）の魅力を高め、産業を支える人を確保します。

I 誰もが働きやすく、活躍できる元気なまち

○ 多様な人材が活躍する産業の支援

- ①全ての産業における人手不足対策の推進
- ②外国人材の更なる活用の推進
- ③誰もが働きやすい環境整備の推進
- ④事業者等の情報発信力強化の推進



○ 少人数でも持続可能な産業の支援

- ①効率的な事業経営の推進
- ②新技術の導入による省力化の推進



II 変革への挑戦を続け、新しい価値を創造するたくましいまち

○ 新たな事業・商品・サービスを創造する事業者の応援

- ①新たなマーケット開拓の推進

- ②新たな革新技術の活用による経営拡大の推進



○ 自ら起業する人の支援と仕事づくり

- ①新たな起業者の育成と受入環境整備の推進
- ②地域から仕事を供給する体制整備の推進



○ 地域資源を活かした産業づくり

- ①広葉樹を活用した産業・まちづくりの推進
- ②薬草を活用した産業・まちづくりの推進
- ③えごまを活用した産業・まちづくりの推進



III 様々な人や地域との交流から所得を生み出すまち

○ 思い出に残る観光地づくり

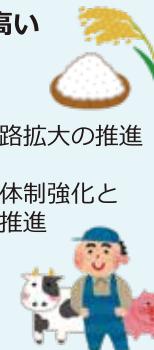
- ①観光客のニーズに合わせた受入環境整備の推進

- ②ヒト・モノ・コトを楽しむ新たな観光コンテンツの開拓推進



○ 都市部への訴求力が高い農林畜産業づくり

- ①飛騨米など農作物の高付加価値化による販路拡大の推進
- ②飛騨牛など畜産の生産体制強化と新たなブランド開発の推進
- ③農林畜産業を支える基盤整備の推進



○ 関係人口等との交流によるまちづくり

- ①関係人口との関係深化によるまちづくりの促進
- ②連携・提携等による交流の推進
- ③移住・定住の促進



検証指標

評価指標	基準値	理想値	分析のポイント
認定農業者数（市「農業振興課調べ」）	85経営体 (R1.12)	90経営体 (R6)	地域毎の認定農業者数の推移を比較し、農業者の動向を分析します。
納税義務者一人当たり所得（市税）（総務省「市町村税課税状況等の調」）	2,663千円 (R1)	2,774千円 (R6)	納税義務者一人当たりの市民所得の推移を比較し、変化率を分析します。
観光入込客数（市「観光課調べ」）	1,078,956人 (H30)	1,300,000人 (R6)	観光施設ごとの入込客数の推移を比較し、傾向を分析します。
観光宿泊者数（市「観光課調べ」）	101,564人 (H30)	120,000人 (R6)	宿泊施設ごとの入込客数、国別の宿泊者数の推移を比較し傾向を分析します。

政策の方向性2

あんきな
飛騨市づくり
～まちをつくる～

介護、医療、障がい児者支援、低所得者対策など、弱い立場の方々への支援は市民全てが必要とする取り組みです。地方自治体の本務と位置付け、市民の安全・安心を守ります。

I 誰一人取り残されず大切にされる思いやりのあるまち

○ 必要な医療・介護を受けられる体制づくり

- ①医療・介護職等の人材確保や医療機関等の診療体制整備の推進

- ②市外医療機関との連携の推進



○ 最期まで 住み慣れた場所で暮らせる仕組みづくり

- ①高齢者の生活支援と見守り体制強化の推進

- ②残された遺族を支える終活支援体制強化の推進

○ 弱い立場の方も一人ひとりありのままの自分を大事にされる環境づくり

- ①障がいのある方の生活環境整備と雇用拡大の推進

- ②弱い立場の方や
暮らしに困難を抱える方への支援の拡大



II お互いを家族のように思い、支えあえるまち

○ みんなで支えあうコミュニティと 防災体制づくり

- ①コミュニティの強化と
持続可能な体制整備の推進

- ②地域防災力強化の推進



○ 楽しく子育てできる環境づくり

- ①子育て環境充実の推進

- ②産前産後の支援体制強化の推進

- ③子育て負担軽減の推進



III 生涯現役で自分らしく暮らせる健やかなまち

○ 全世代の健康づくり・体力づくりの支援

- ①生活習慣改善の推進

- ②高齢者のリハビリ等軽運動と
生きがいづくりの推進

- ③スポーツを通した健康増進の推進



○ どんな人でも自分のペースで活躍できる 環境づくり

- ①誰もが活躍できる仕組みづくりの推進

- ②誰もが無理なく楽しめる
場づくりの推進



検証指標

評価指標	基準値	理想値	分析のポイント
65歳以上の要介護認定者数に占める 要介護2以上の方の割合 (厚生労働省「介護保険事業状況報告月報(暫定版)」)	50.27% (H30)	50.27% (R6)	年齢や介護度別の認定者数を比較し、傾向を分析します。
保育園待機児童数 (市「子育て応援課調べ」)	0人 (H30)	0人 (R6)	子どもの数やニーズ等を把握し、傾向を分析します。
消防団員数 (市「消防年報」)	852人 (H31.4)	750人 (R6)	分団ごとの年齢別団員数を比較し、将来の団員数推計等を分析します。

政策の方向性3

誇りの持てる
飛騨市づくり
～ひとを伸ばす～

人材の育成と地域資源の掘り起こしにより市の魅力を高め、市民の自信につなげることで飛騨市を誇りに思う気持ちを醸成し、若者の定着とITセンターを促進します。

I 子ども達の生きる力を地域一体で育む学び豊かなまち

○ 未知の課題に立ち向かい自ら解決することのできる子ども達を育むまちづくり

- ①飛騨市学園構想の推進
- ②飛騨市ならではの教育と環境整備の推進
- ③部活動や学校外での活動支援の推進



II 一人ひとりの頑張りを応援し互いに尊敬しあえるまち

○ 生涯学び自分を磨くことができる環境づくり

- ①生涯にわたって学べる環境整備の推進
- ②趣味を楽しみ文化芸術に触れる環境整備の推進



○ 個性あるまちづくり活動の促進

- ①まちづくりを担う人材の発掘・育成の推進
- ②地域のまちづくり活動の連携と創出促進



III 豊かな環境と個性ある地域資源を大切にする誇り高いまち



○ 地域・文化資源を大切にし自慢できる仕組みづくり

- ①新たな地域資源・歴史資源創出と掘り起こし・磨き上げの推進
- ②文化資源継承の推進



○ 豊かな自然と水を守り後世に引き継ぐ仕組みづくり

- ①ゴミの減量化の推進
- ②自然・水資源を保全する取り組みの推進



検証指標

評価指標	基準値	理想値	分析のポイント
市民のまちづくり活動団体数 (市「地域振興課調べ」)	54団体 (R1)	70団体 (R6)	まちづくり活動団体の活動状況や構成年齢等を分析します。
移住者数 (市「地域振興課調べ」)	100人 (H30)	550人 (R2-R6)	年齢や出身地等、目的やきっかけ等を調査し、傾向を分析します。
一人当たり年間可燃ゴミ排出量 (市「環境課調べ」)	182.6kg (H30)	181.0kg (R6)	種別ごとの排出量を比較し、変化率を分析します。

行財政運営の方針

» 01 財政の見通し

本市の今後の財政を見通すと、国の施策に伴う人件費や社会保障関係経費の増加が見込まれますが、大型公共施設の建設が概ね落ち着いたことから、起債（借金）の抑制に伴う公債費負担（借金返済費）の減少により、財政の状況に余裕があるとは言えないものの、市の規模に応じた安定した財政運営を見込むことができます。

» 02 財政運営の方針

財政の見通しを踏まえたうえで、本指針に盛り込まれた重要な政策課題に対応するための更なる財源確保にあたり、下記の財政運営を基本方針とします。

（1）歳入確保への取り組み

企業の設備投資等を促すことによる固定資産税の確保、ふるさと納税、基金運用益の増加策、未利用資産の売却を推進します。

（2）歳出削減への取り組み

人件費総額を約31億円以内に抑制するとともに、市債残高を削減し、施設は長寿命化対策を進めながら、統廃合や譲渡等を検討します。



» 03 行財政改革

（1）事務事業の見直しと職員定数の管理

事務事業の標準化を促進することやICTを活用したテレワークの導入、AI・RPAの活用や業務の外部委託等を積極的に推進することで、職員がやることでより価値がある業務に取り組む時間を生み出します。

また、職員研修による能力向上と柔軟な事務分掌の見直しの実現により、限られた人材と時間を有効活用できる組織づくりを進めるとともに、限られた職員数を有効活用するため、正職員、会計年度任用職員をあわせて定数管理を行います。

（2）公共施設の管理運営

長期的な視点の下、計画的な予防保全実施により施設の長寿命化を推進し、総投資額の抑制と財政負担の平準化を図ります。また、設備老朽化に起因する突発的修繕事業の多発に伴う財政負担増や、社会情勢変化による施設の利用実態等も勘案し、民間譲渡、他目的への転用による有効活用、類似施設の廃止等、施設のあり方そのものについても市民との意見交換を踏まえ検討を進めます。

（3）内部統制制度の導入

地方公共団体における内部統制とは、組織目標達成を阻害する事務上のリスクを識別・評価し、その対応策を講じることで事務の適正かつ効率的な執行を確保しようとすることです。

飛騨市においても、限られた財源・人員で適正かつ効率的に市民サービスを行うための仕組みが求められていることから、飛騨市に合った体制で内部統制制度の導入を推進します。

【編集・発行】

飛騨市 企画部 総合政策課

〒509-4292 岐阜県飛騨市古川町本町2番22号

電話：0577-73-2111（代表） FAX：0577-73-7077

E-mail：sougouseisaku@city.hida.lg.jp